

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成27年10月23日(金)5校時
 児童 2年4組 男17名 女12名 計29名
 指導者 川原麻紀子

1 個人課題 進んで表現し、伝え合うことのできる児童の育成
 ～友だちの考えのよさを交流する活動を通して～

2 単元名 音読げきをしよう
 教材名 「お手紙」

3 単元について

(1)児童について

児童は、これまでに「ふきのとう」と「スイミー」において、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら役に分かれて音読をしたり、お話を読んで感想を書いたりする活動を経験してきた。音読では、声の大きさや読む速さについて、場面の様子に合わせた工夫を考えることができるようになってきたが、登場人物の気持ちを音読で表現することは十分に身につけているとは言えない。このことから、本単元では、音読劇をするという目的を持たせることで、登場人物の会話や行動から場面の様子を想像しながら読む力を身に付けさせたい。また、場面ごとに読み取ったことをもとにして音読する活動を繰り返すことで、毎時間、音読劇を意識した読みをさせていきたい。

(2)単元について

- ・本単元は、「人物の行動や会話に注意して、工夫して音読すること」を主なねらいとする。
- ・本単元では、読み取ったことをもとに場面の様子を想像しながら音読劇を演じる活動を言語活動として設定する。声の出し方や動き方について、音読の工夫を書きこませながら音読練習をする活動と、音読劇を発表し、感想を伝え合うという活動により、読むこと的能力や態度を養うことをねらいとしている。
- ・本時に関わる指導事項は、「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を広げながら読むこと」である。

(3)指導計画(全12時間)

- ・第一次 学習の見通しをもつ。 2時間
- ・第二次 場面の様子や人物の行動・会話を読み取り、音読の工夫を考える。 6時間(本時4/6)
- ・第三次 音読劇の発表し、感想を伝え合う。 3時間
- ・第四次 「お手紙」の登場人物に手紙を書く。 1時間

4 本時の指導(5/12時間)

(1)目標 お手紙を待つかえるくんの行動や会話に着目し、がまくんを励ましているかえるくんの様子を想像しながら音読することができる。〈読む能力〉

(2)具体の評価規準

観点別 評価目標	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (支援の手立て)
お手紙を待つかえるくんの様子を想像し、工夫して音読することができる。	お手紙を待つかえるくんの様子を、前の場面の様子や行動と関連付けて、根拠をあきらかにしながら音読している。	お手紙を待つかえるくんの様子を想像し、根拠をあきらかにしながら音読している。	繰り返し出てくる文章や挿絵の表情、会話文に着目させる。

(3)個人課題や共通課題との関わり

実際に授業の中では、繰り返し出てきている言葉や文の比較をさせたり、登場人物の会話や行動に着目させたりして、場面の様子や登場人物の心情を読み取らせたい。さらに、挿絵からも場面の様子が想像できることに気付かせた上で、音読に生かすようにさせる。このような読み取りが、第三次に位置付けている音読劇へとつながるようにしていきたい。

個人課題や共通課題に関わっては、次のような手立てを行う。

- ①授業の見通しを持たせる。
 - ・様子や心情を読み取る→音読表現の工夫を考える→練習するという流れを確認させる。
- ②各場面の挿絵の活用及びお面の活用
 - ・登場人物の動作や表情、場面の状況を把握するため、教科書の挿絵を拡大し、掲示する。
 - ・担当した登場人物のお面を身に付けることで、役になりきったり登場したときの気持ちに共感したりする手助けとする。
- ③伝え合う場の設定
 - ・表現の工夫を考えるとときには、どうしてそのような工夫を考えたのか、考えの根拠となる言葉や文に音読の記号などを書かせ、それを聞き手に伝える。
- ④ペア交流の位置付け
 - ・2つのペアで交流する場を位置付ける。各ペアでの音読練習後、2つのペアで互いに発表練習を見合い、感想を伝え合うことで、音読の工夫やよさを学び合えるようにする。

お手紙

かだい

アーノルド・ローベルさく・絵
お手紙をまつかえるくんの気もちを考え、くふうして音読しよう。

「がまくん。」

「きみ、おきてき、お手紙が来るのを、もうちょっとまってみたらいいと思うな。」

まどから
ゆうびんうけを
見ました。

○かたつむりくん、まだかな。
○かたつむりくん、早く来ないかな。



「がまくん。」

「きょうは、だれかが、きみにお手紙くれるかもしれないよ。」

かたつむりくんを
まつ気もちが
強くなっている。
まどから
のぞきました。

○まだかな、まだかな、かたつむりくん。早く来てよ。
○ああ、まちどおしい。



「でもね、がまくん。」

「ひょうとして、だれかが、きみにお手紙をくれるかもしれないだろう。」

まどから
のぞきました。



がまくんを元気
づけている



あきらめている

指導展開

一 前時の学習内容を想起する。 二分
○かたつむりくんにお手紙を頼んだかえるくんの気もちを想起させる。

二 学習課題を把握する。 二分
○本時の挿絵を黒板に掲示し、かたつむりくんにお手紙を頼んだ後、かえるくんはがまくんの家に戻ったことをおさえる。

★行動と会話文に気をつけながら読んでいくという読みの視点を確かめ、課題解決の見通しをもたせる。(視点一)

三 学習場面を確認し、音読する。 三分
(P11L1~P14L2)

○役割読みをさせながら、誰が言った言葉かを確認させる。

四 かえるくんの会話と行動を確認し、課題について考える。 十五分

○三回も窓を見ていることに気付かせ、挿絵でかえるくんの窓の見方に着目させる。

○「見ました」と「のぞきました」を、動作化などを通して比較させ、かえるくんの気持ちの高まりがあることに気付かせ、読み方に変化をつけさせたい。

○音読の工夫を考えさせ、音読練習をさせる。

・読みの根拠を明らかにして、書き込んだことが表現できるように、音読の仕方を考えさせる。

■二人の様子を読み取り、気もちを想像しながら、音読の工夫を考え、音読している。(台本カード)

五 がまくんとかえるくんの会話文の工夫を生かして役割読みをする。 八分

○自信をもって表現するために、ペアで伝え合わせる。

★工夫して読みたいところと、そう読みたいわけを相手に伝えてから役割読みをする。
★★友だちの音読を聞き、音読のしかたの交流をさせ、互いの良いところを見つけ、認め合えるよう配慮する。(視点二)

六 グループで発表し、音読のしかたについて深め合う。 八分
○グループ内の発表が終わったら、音読の工夫についてグループで相談し、どのように音読したら場面の様子が聞く人によく伝わるか考えながら、音読の工夫を考えさせる。

七 課題についてまとめる。 四分

○全体の前で指名して役割読みをさせ、感想を伝え合う。
★友だちの発表を聞き、音読のしかたで工夫しているところを伝えさせる。(視点二)

八 学習の振り返りをする。 三分

○ワークシートに、「自分の音読の振り返り」を書かせる。

九 次時の予告をする。

★個人課題に関わって
★共通課題に関わって
■評価(評価方法) ○指導の手立て(留意点)